Japan Storytelling Network Newsletter No.69

NPO法人 全日本語りネットワーク ニュース

2019. 1. 26 発行

〒185-0021 東京都国分寺市南町2-18-3
国分寺マンションB－03A
(Fax) 0237-67-7001 (振替) 00130 - 2 - 114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

「全日本語りの祭り」と小泉八雲

杉村史朗（神奈川県中郡二宮町）

平成１４年１０月に鳥取県境港市で開催された第６回「全日本語りの祭り」に初めて参加した。出雲神話の神をまつるという由緒ある美保神社での夜語りは、私にとって忘れがたいものとなった。この夜、語られたのは小泉八雲の怪談「梅津忠兵衛」。

端正な美保神社本殿の前庭が「夜語り」の会場だった。大きな篝火が焚かれ、会場を囲むぼんぼりには灯が点されていた。怪談「梅津忠兵衛」の語りが佳境に入ったころ、不思議なことに雨がぽつりぽつりと降りだし、ぼんぼりの灯が風に揺れて次々と消え、あたりの闇が深まっていった。

第６回　美保神社

この夜語りの神秘的な情景に驚くとともに、心底この「八雲の作品と語り」に魅了された。それから十数年、八雲の作品を地元の小学校・高学年生、中学生、大人たちへ語り続けてきた。「雪女」「茶碗の中」「梅津忠兵衛」などいずれも妖しく美しい物語。

平成最後の３０年１０月、第14回「全日本語りの祭り」の会場は、紅葉を迎え始めた温泉の湧く、美しい那須高原。数棟あるホテルサンバレーのよく準備された語りの場で、数多くの魅力ある「語り手」や「すぐれた作品」に出会うことができた。私も八雲の「青柳ものがたり」を語る機会を与えていただいた。

八雲は外国の文学史家から「異国のもの事をその国の価値観で見たり感じたりすることのできる人」と評価されている。西洋中心の文化が支配的になっている今のグローバルな社会で貴重な存在におもえる。八雲は日本人の霊の世界を美しい物語として数多く書き遺し「耳無し芳一」など教科書にも紹介され親しまれてきた。

八雲が日本に住んでいた１００年以上の昔を考えると、今の日本は飛行機が飛び交い、新幹線が走り、自動車が国の隅々まで普及する様子は、当時ではとても想像もつかない国に変わってきている。しかし、地方に行けば昔と変わらぬ八雲が好んで旅をした場所が今でも残っている。妖怪が現れそうな神秘的な地域や豊かな自然が数多くある。

八雲が心をひかれた日本人の素朴な日々の暮らしぶり、情感や美意識、これらがこの先も若い人々にいつまでも引き継がれることを願っている。人生の終盤を迎えている私も微力ながら八雲の作品を語り続けたいとおもう。日本に継承されてきた多くの昔話や神話、伝説を語り、聴くことを楽しむ人々が増えていくことを期待したい。

最後になりましたが「全日本語りネットワーク」の理事長をはじめスタッフの方々の長年の活動に改めて深い敬意と感謝を申し上げます。これからも素晴らしい「語り」の場やそれを楽しむ人々との出会いの場をつくり続けていただきたいとおもいます。